

類聚佛國刑法

二

東 京 圖 書 館	
新 門	一 三 函
一 部	一 四 架
類	四 八 五 六 號

CF2  
711  
01

一  
共  
四  
本

CF2  
711  
01

類聚佛國刑法卷二目錄

戶婚律

婚姻違法

紊民生證

人民集會

收養子女

棄兒

無籍及乞丐者

埋葬違法

棄毀器物稼穡等

妨害建築

治水違法

工藝犯則

貿易犯則

牧蓄犯則

賊盜律

國事犯罪

抗命

盜官文書

監守自盜

強竊盜

盜官私牛馬及田野穀麥

親屬相盜

雇人盜家長財物

恐喝取財

詐欺取財

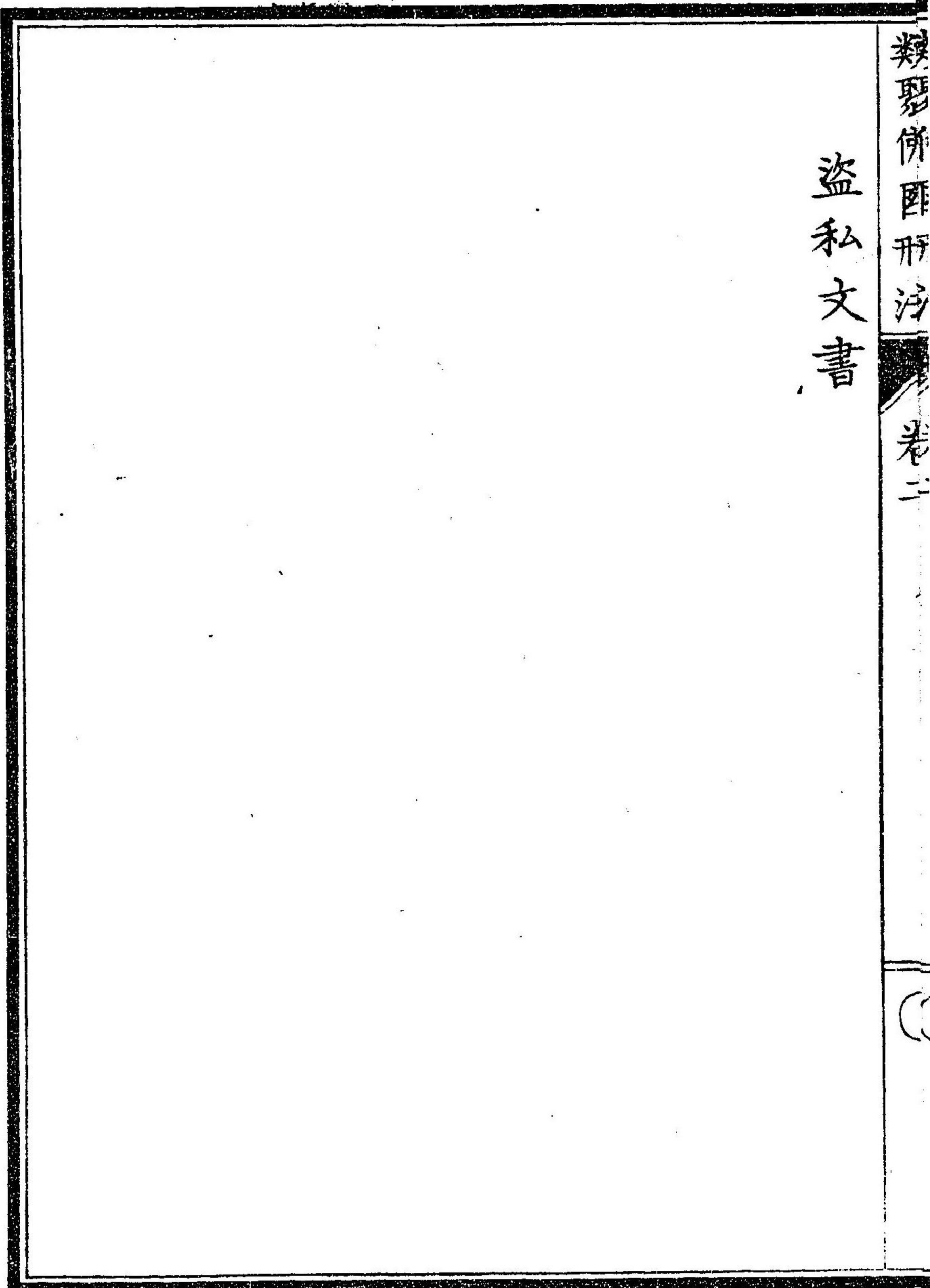
誘拐人

兇徒聚眾

發塚

偽為家資分散

盜私文書



東書

類聚併註 國刑法卷二

婚姻律

婚姻違法

第一百二十八條 原第三百四十條 其未夕前婚ヲ解カサル

中更ニ再婚及ヒ再婚ノ契約等ヲ為シタル夫

又ハ婦ハ有期ノ徒刑ニ處セララル可シ

未夕前婚ヲ解カサル中更ニ再婚ノ約ヲ為タ

ル時政府ヨリ任ヲ受タル官吏ノ其事ヲ知テ

許セシ者ハ同上ノ刑ニ處セララル可シ

素民生證

第二百二十九條

原第三百四十五條

小兒ヲ誘拐シ及ヒ藏窩

シ又ハ子ノ出產ヲ隱蔽シテ上告セス又ハ他人ノ子ヲ以テ己レノ子ト交替シ及ヒ子ヲ舉セサル婦ヘ子ヲ圖賴スル等ノ罪ヲ犯シタル者ハ徒刑場内ニ於テ驅役スル刑ニ處セラル可シ

若シ其子ノ現ニ生存シタル證ノ分明ナラサル時ハ其犯人ニ於テ一月ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

若シ其子ノ生存セサルノ確證アル時ハ其犯人ニ於テ六月ヨリ少カラス二月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ  
子ヲ受寄セシ者ニ於テ其子ノ交解ヲ求ム可キ權アル者ヨリ求需ヲ受ルト雖モ其交解ヲ肯セサル時ハ徒刑場内ニ於テ驅役スル刑ニ處セラル可シ

第三百十條

原第三百四十六條

婦ノ子ヲ産スル事ニ對定

セシ者ニ於テ民法第五十六條ニ記載シタル規則ニ循ヒ民法第五十五條ニ記載シタル延

期ノ中ニ其出産ノ事ヲ上告セサル時ハ六日ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六フランクヨリ少カラス三百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

人民集會

第三百一十一條原第二百一十一條二十人以上ニ於テ法教文學政事等ノ事ヲ目的ト為シ毎日集會ヲ為シ及ヒ期日ヲ定メテ集會ヲ為ス等ノ事ハ政府ノ允許ヲ受ケ且官署ヨリ命シタル定規ヲ

遵守スルノ外之ヲ為スヲ得可ラス

但シ其集會ヲ為ス家屋ニ居住スル者ハ此條

ニ記シタル集會ノ員中ニ加ヘ算ス可ラス

第三百十二條原第二百九十二條前條ニ記セシ所ノ集會

ハ政府ノ允許ヲ得ス又ハ其允許ヲ得タル後

ト雖モ官署ヨリ命シタル定規ヲ遵守セスシ

テ行フタル時之ヲ解散セシム可シ

其集會ノ頭目及ヒ指揮者支配人等ハ十六フ

ランクヨリ少カラス二百フランクヨリ多カ

ラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第三百三十三條 原第二百九十三條 會話勸諭及ヒ天ニ請ヒ

神ニ禱リ其他何レノ種類ヲ論セス言詞ヲ用  
ヒ書籍ヲ講シ又ハ貼壁ノ告示及ヒ其他何レ  
ノ種類ト雖モ書類ノ刊行分配等ヲ為シ其集  
會ニ於テ重罪ノ犯及ヒ輕罪ノ犯等ヲ挑唆ス  
ル事アル時ハ其集會ノ頭目指揮者支配人等  
ニ於テ百フランクヨリ少カラス三百フラン  
クヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ且三月  
ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮  
ノ刑ニ處セラル可シ但シ此規則ト其集會ノ

各人ニ於テ重罪及ヒ輕罪等ノ犯ヲ挑唆シタ  
ルニ因リ更ニ重刑ニ處セラル可キ規則ト相  
抵觸スル事ナカル可ク且其重罪及ヒ輕罪等  
ノ犯ヲ挑唆シタル各人ノ刑ハ其集會ノ頭目  
指揮者支配人等ノ受ク可キ刑ヨリ以下ナル  
事ナカル可シ

第三百三十四條 原第二百九十四條 官署ノ允許ナクシテ家  
屋及ヒ房室等ノ全部又ハ一部等ヲ前條ニ記  
シタル集會ノ為メ又ハ禮拜ヲ行フ為メ等ニ  
使用スル事ヲ許諾セシ者ハ其集會ニ於テ縱

令ヒ政府ノ允許ヲ受ケシ者ト雖モ十六「アラ  
ンク」ヨリ少カラス二百「フランク」ヨリ多カラ  
サル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

収養子女

第百三十五條 原第三百四十八條 自己ニ於テ照管又ハ其  
他ノ原由等ヲ以テ委任ヲ受シ全周七歳以下  
ノ兒ヲ貧院へ移送セシ者ハ六週ヨリ少カラ  
ス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セ  
ラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス五十「アラ  
ンク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

然レモ若シ其者ニ於テ自己ノ費用ヲ用ヒ其  
子ノ養育ヲ為ス可キ契約ヲ為サス且他ニ養  
育ノ費用ヲ給ス可キ者ナキ時ハ其犯人ヲ刑  
ニ處ス可ラス

棄兒

第百三十六條 原第三百四十九條 全周七歳以下ノ兒ヲ寥  
閑ノ地へ棄シ者及ヒ其兒ヲ棄ツ可キノ命ヲ  
ナシテ現ニ其命ノ行ハレシ者等ハ此所行ノ  
ミヲ以テ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラ  
サル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「アラ



クヨリ少カラス二百「フランク」ヨリ多カラサ  
ル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第百三十七條 原第三十條 兎ノ後見人及ヒ其受業

師等ニ於テ自カラ其兒ヲ棄テ及ヒ棄ツ可キ

ノ命ヲ為シタル者ハ二年ヨリ少カラス五年

ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且

五十「フランク」ヨリ少カラス四百「フランク」ヨ

リ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第百三十八條 原第三百一十條 若シ前二條ニ記載シタ

ル所ノ如ク棄兒ノ事ニツキ其兒ノ身體ヲ創

傷シ及ヒ廢疾者ト為タル時ハ其兒ヲ棄シ者

ニ於テ故意ヲ以テ其兒ヲ創傷シタルノ罪ア

リト為ス可シ若シ又其兒ノ死亡セシ時ハ其

兒ヲ棄シ者ニ於テ人ヲ殺スノ罪アリト為ス

ヘシ但シ其棄兒ヲ毀傷セシ時ハ其兒ヲ棄シ

者ニ於テ故意ヲ以テ人ヲ創傷スルノ刑ニ處

セラレ其棄兒ノ死亡セシ時ハ其兒ヲ棄シ者

ニ於テ故意ヲ以テ人ヲ殺スノ刑ニ處セラレ

可シ

第百三十九條 原第三十二條 全周七歳以下ノ兒ヲ寥

聞ナラサル地へ棄シ者ハ三月ヨリ少カラス  
 一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラ  
 レ且十六「フランク」ヨリ少カラス百「フランク」  
 ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ  
 第四百十條原第三三條若シ兒ノ後見人及ヒ其受  
 業師等ニ於テ前條ニ記シタル輕罪ヲ犯セシ  
 時ハ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル  
 時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且二十五「フランク」  
 ヨリ少カラス二百「フランク」ヨリ多カラサル  
 罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第四百十一條原第三百四十七條初生ノ棄兒ヲ遇見シタ  
 ル者ニ於テ民法ノ第五十八條ニ記載シタル  
 所ノ如ク其兒ヲ民生ノ事ニ管スル官吏へ交  
 解セサル時ハ第三百三十條原第三百三十六條ニ記シタ  
 ル刑ニ處セラル可シ  
 其兒ヲ承管ス可キ許諾ヲ為シ其事由ヲ其兒  
 ヲ遇見セシ地ノ官署へ告知シタル者ハ同上  
 ノ刑ニ處ス可ラス

無籍及乞丐者

第四百十二條原第二百十九條無籍ハ輕罪ナリトス

第四百十三條

原第七十條

無籍者トハ一定ノ居所

及ヒ營生ノ方法等ナク平常職業ヲ為サビル者ヲ云フ

第四百十四條

原第二百一十一條

無籍者ニ於テ裁判所ノ

命ヲ以テ無籍人タルノ言渡ヲ受ケシ時ハ其言渡ヲ受シ事ノミヲ以テ三月ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラ  
ル可シ但シ其無籍者ハ其刑ヲ受ケシ後五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ヨリ監察ヲ為シ送致ス可シ

然ルニ十六歳以下ノ無籍者ニ於テハ禁錮ノ刑

ニ處ス可ラス然ルニ無籍タルノ證アル時ハ其

證ノミヲ以テ全周二十歳ノ齡ニ至ル迄ノ時

間政府ヨリ監察ヲ為シテ送致ス可シ但シ若

シ二十歳ニ至ラサル以前ニ海陸軍ノ兵籍ニ

入ル可キ定約ヲ為シタル時ハ此規則ノ外ナ

リトス

第四百十五條

原第二百一十二條

裁判所ノ命ヲ以テ無籍

人タルノ言渡ヲ受ケシ者ノ若シ外國人タル時ハ政府ノ命ヲ以テ法朗西領地外へ徙放セ

ラル可シ

第四百十六條 原第二百七十三條 佛蘭西國ニ於テ生レシ  
 無籍者ハ裁判所ヨリ無籍ノ言渡ヲ受ケシ後  
 ト雖モ其生レタルコムミュンシノ會議ノ意ヲ  
 以テ交解ヲ得ントヲ請ヒ且家資分散ノ者ニ  
 非レハ何者ヲ論セス其無籍者ヲ承管ス可キ  
 證人トナルトヲ得可シ  
 若シ其交解ヲ得ントヲ請ヒシ無籍者ノ生レ  
 タルコムミュンシ及ヒ承管ノ證者トナル可キ  
 事ヲ請ヒシ者等へ政府ニ於テ其允許ヲ為ス

時ハ政府ノ命ヲ以テ其無籍者ノ交解ヲ請ヒ  
 シコムミュンシニ送致シ又ハ其承管ノ證者ノ  
 請ニ因リ其無籍者ヲ居住セシム可キ地へ送  
 致ス可シ

第四百十七條 原第二百七十四條 乞丐者ヲ扶助スルカ為  
 ノ政府ヨリ建設セシ貧院ノアル地ニ於テ食  
 ヲ乞フ者ハ三月ヨリ少カラズ六月ヨリ多カ  
 ラサル時間禁錮ノ刑ニ處シ且其刑ノ期滿ノ  
 後ニ至リ其乞者ヲ入置ク場所へ送致ス可シ  
 第四百十八條 原第二百七十五條 貧院ヲ建設セサル地ニ

於テ食ヲ乞フヲ常慣トナス盛壯ノ者ハ一月ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

若シ其乞丐者ノ其居住スル「カントン」「コン」  
箇ヲ合セシ外ニ於テ捕獲ヲ受ケシ時ハ六月  
ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮  
ノ刑ニ處セラル可シ

第百四十九條 原第二百六條 乞丐者ニ於テ縱令病者ト雖氏人ヲ脅迫セシ者又ハ家屋ノ所有者及ヒ其家屋ニ居住スル者等ノ許ヲ得スシテ其

家屋又ハ其家屋ニ屬シタル藩圍内等ニ入シ者

創傷及ヒ疾病等ヲ偽ル者

夫婦父母及ヒ其若年ノ子瞽者及ヒ其指導者等ヲ除クノ外連行シテ食ヲ乞フ者

此等ノ者ハ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

○無籍者及ヒ乞丐者等ニ適當スル規則

第百五十條 原第二百七條 乞丐者及ヒ無籍者等ニ於テ何レノ方法ヲ論セス其狀貌ヲ詭ハリテ捕

獲ヲ受ケシ者

兵器ヲ用ヒ及ヒ兵器ヲ用ヒテ脅迫ヲ行フ等ノ事ナシト雖モ兵器ヲ弄セシ者

鑪搭竿又ハ其他攘奪及ヒ他ノ輕罪犯ヲ行フ可キ器具或ハ家屋内ニ潛入スルニ適當ナル器具等ヲ持セシ者

此等ノ者ハ二年ヨリ少カラズ五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第百五十一條 原第二百七十八條 百フラン以上ノ價アル品物及ヒ貨幣等ヲ所有シテ其來由ノ證ヲ

陳述セサル乞丐者無籍者等ハ第百四十九條

原第二百七十六條ニ記シタル刑ニ處セラル可シ

第百五十二條 原第二百七十九條 乞丐者及ヒ無籍者等ニ

於テ何事ヲ論セス人ニ對シテ暴行ヲ為シ及ヒ為ントセシ者ハ二年ヨリ少カラズ五年ヲリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ但シ此規則ト其暴行ノ種類及ヒ景状等ニ因リ更ニ重刑ニ處ス可キ規則ト相抵觸スル事ナカル可シ若シ其暴行ヲ為シ及ヒ為ントシタル乞丐者

無籍者等ノ第百五十條原第一百七十條ニ記シタル  
景状ニ於テハ徒刑場内ニ於テ驅役スル刑ニ  
處セララル可シ

第百五十三條原第一百八十一條此書中ニ記シタル贗造  
及ヒ變造等ノ保身ノ證券、路券、兵士ノ道途ヲ  
限定スル路券等ヲ所有スル者ヘ對シ定メタ  
ル所ノ刑ヲ無籍者及ヒ乞丐者等ニ用ユル時  
ハ其刑中ノ至重ノ刑ヲ用ユヘシ

第百五十四條原第一百八十二條前數條ニ開載セシ刑ニ  
處セラレタル乞丐者ハ其刑期ノ終リシ後五

年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政  
府ヨリ監察ヲ為シ送致ス可シ

埋葬違法

第百五十五條原第三百五十八條政府ヨリ任ヲ受ケシ官  
吏ノ特ニ允許ヲ受ク可キ定則アル場合ニ於  
テ其允許ヲ得スレテ死者ヲ埋葬セシ者ハ六  
日ヨリ少カラス二月ヨリ多カラサル時間禁  
錮ノ刑ニ處セラレ且十六フランクヨリ少カ  
ラス五十フランクヨリ多カラサル罰金ノ言  
渡ヲ受ク可シ但シ此規則ト此輕罪ヲ犯シタ

ル者ノ其時ニ於テ他ノ重罪ヲ犯シタルニ付  
更ニ重刑ヲ受ク可キ規則ト相抵觸スルコトナ  
カル可シ

何レノ方法ヲ論セス埋葬ニ付定メタル定期  
ノ法則ニ背シ者ハ同上ノ刑ニ處セラル可シ

棄毀器物稼穡等

第百五十六條 原第四百三條 腐爛ヲ生セシムル流動  
物ヲ用ヒ及ヒ其他ノ方法ニ因リ故意ヲ以テ  
商品又ハ製造ヲ為ス可キ品物及ヒ器具等ノ  
類ヲ損敗シタル者ハ一月ヨリ少カラス二年

ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且  
償還ノ金額ノ四分一ヨリ多カラス十六プ  
ラシクヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ  
若シ製造所ノ工丁及ヒ商家ノ家僮等ニ於テ  
此輕罪ヲ犯シタル時ハ二年ヨリ少カラス五  
年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル  
可シ但シ此規則ト其犯人ニ於テ前項ニ記シ  
タル罰金ノ言渡ヲ受ク可キ規則ト相抵觸ス  
ル事ナカル可シ

第百五十七條 原第四百四條 未夕刈取セサル穀類及



七 天生人造等ノ草木類等ヲ傷殘セシ者ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ  
且其犯人ハ裁判所ノ命ヲ以テ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ク可シ

第百五十八條 原第四百十五條 樹木ノ他人ニ屬セシ事ヲ知り其一根又ハ數根ヲ斫伐セシ者ハ其斫伐シタル樹木ノ每根ニツキ六日ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セ

ラル可シ但シ其斫伐シタル樹木ノ數ニ於テ幾許アリト雖モ其犯人ヲ五年ヨリ以上ノ刑ニ處スル事ナカル可シ

第百五十九條 原第四百十六條 樹木ヲ枯死セシムル方法ヲ以テ之ヲ傷ケ及ヒ斫リ或ハ其皮ヲ剝去セシ者ハ其樹木ノ每根ニツキ前條ニ等シキ刑ニ處セラル可シ

第百六十條 原第四百十七條 接木ノ一根又ハ數根ヲ損害シタル者ハ其接木ノ每根ニツキ六日ヨリ少カラス二月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑

ニ處セラル可シ但シ其損害セシ數ニ於テ幾許アリト雖モ其犯人ヲ二年ヨリ以上ノ刑ニ處ス可ラス

第百六十一條 原第四百八條 若シ街衢大道道路市街

小路傍徑等ニ植タル樹木ヲ斫伐シ又ハ損害

シタル者ノ第百五十八條 原第四百五條 及ヒ第百

五十九條 原第四百六條 等ニ記載セシ場合ニ於テ

ハ其至輕ノ刑ニ於テ二十日ノ時間禁錮スル

ヨリ以下ナルヲナク第百六十條 原第四百七條 =

記載シタル場合ニ於テハ其至輕ノ刑ニ於テ

十日ノ時間禁錮スルヨリ以下ナルヲナカル可シ

第百六十二條 原第四百七條 馬又ハ其他車ヲ挽シメ

及ヒ騎行ノ用ニ供シ或ハ物ヲ搬運スルノ用

ニ供ス可キ獸類又ハ牛羊草羊豚及ヒ池沼ニ

養フタル魚等ニ毒物ヲ與ヘレ者ハ一年ヨリ

少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑

ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス三

百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受

ク可シ但シ其犯人ハ裁判所ノ命ヲ以テ二年

ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ク可シ

第百六十三條原第四百五十三條已ムヲ得サルニ非スシ

テ前條ニ記シタル獸類ノ一ヲ殺セシ者ハ左ノ刑ニ處セラル可シ

若シ其獸類ヲ蓄ヒ置シ者ノ所有シ及ヒ借受シ家屋又ハ其圍繞ヲ為シタル場所及ヒ其附屬ノ場所又ハ土地等ニ於テ此輕罪ヲ犯シタル者ハ二月ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

若シ犯人ノ所有シ及ヒ借受シ場所ニ於テ此輕罪ヲ犯シタル時ハ六日ヨリ少カラス一月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

若シ前ノ二項ニ記シタル以外ノ場所ニ於テ此輕罪ヲ犯セシ者ハ十五日ヨリ少カラス六週ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ  
何レノ場合ニ於テモ塀牆ヲ破壊シテ此輕罪ヲ犯セシ者ハ其至重ノ刑ニ處セラル可シ

第百六十四條 原第百四十四條 已ムヲ得サルニ非スシ

テ獸類ノ所有者ノ所有シ及ヒ借受シ場所ニ

於テ家屋内ニ蓄フ獸類ヲ殺セシ者ハ六日ヨ

リ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ

刑ニ處セラル可シ

若シ塀墻ヲ破壊シテ此輕罪ヲ犯セシ者ハ其

至重ノ刑ニ處セラル可シ

第百六十五條 原第百四十五條 第百五十七條等 原第百四十四條

ヨリ四百五十二條 開載シタル場合ニ於テハ

其犯人ニ於テ償還ノ金額ノ四分一ヨリ多カ

ラス十六フランクヨリ少カラサル罰金ノ言  
渡ヲ受ク可シ

妨害建築

第百六十六條 原第百四十六條 何レノ方法ヲ論セス人

ニ屬スルヲ知リシ建造物及ヒ橋堤等ノ類

ノ全部又ハ一部ヲ故意ヲ以テ滅盡シ及ヒ崩

潰セシメシ者又ハ蒸氣器械ヲ破裂セシメシ

者等ハ徒刑場内ニ於テ驅役スル刑ニ處セラ

レ且償還ノ金額ノ四分一ヨリ多カラス百

フランクヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク

可シ

若シ此罪犯ニ因リ人ヲ殺シ及ヒ傷スル等ノ事アル時ハ其犯人ヲ殺スニ於テハ死刑ニ處シ人ヲ傷スルニ於テハ有期ノ徒刑ニ處ス可シ

第百六十七條

原第四百八條

強劫ヲ以テ政府ノ允許シタル造營操作等ノ成功ヲ妨ント為ス者ハ三月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且損害ノ償還ノ金額ノ四分一ヨリ多カラス十六「フラン」ヨリ少カ

ラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

其罪犯ノ首謀ハ同上ノ至重ノ刑ニ處セラレ可シ

第百六十八條

原第四百一十一條

耕具獸園及ヒ看守人ノ小舎等ヲ破壊セシ者ハ一月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第百六十九條

原第四百五十六條

溝渠ヲ填メ又ハ塀牆ノ何物ヲ以テ造リタルヲ論セス之ヲ破壊シ又ハ植籬及ヒ編牆等ヲ斫リ毀テ及ヒ抜キ採リ

シ者又ハ田地森林等ノ經界ヲ定ムル為メ施  
シタル石及ヒ其經界ヲ定ムル為メ植タル樹  
木又ハ其經界ノ限定ヲ為スラ衆庶ノ通知シ  
タル樹木等ヲ移動シ又ハ毀棄セシ者等ハ一  
月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁  
錮ノ刑ニ處セラレ且償還ノ金額ノ四分一ニ  
當ル可キ罰金ノ言渡ヲ受ク可シ但シ其罰金  
ハ何レノ場合ニ於テモ五十フランクヨリ少  
ナキ事ナカル可シ

治水違法

第百七十條原第四百五十七條土地ノ所有者及ヒ借主又  
ハ水車製造所及ヒ池沼等ヲ所有スル者等ニ  
於テ當然ノ對定者ノ限定シタル高サ以上ニ  
疏水ノ路ヲ造リテ道路及ヒ他人ノ所有スル  
地等ニ其水ヲ流溢セシメシ時ハ償還ノ金額  
ノ四分一ヨリ多カラス五十フランクヨリ少  
カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ  
若シ其水ノ流溢セシニ因リ損害ヲ生シタル  
時ハ其犯人ニ於テ罰金ノ外六日ヨリ少カラ  
ス一月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セ

ラハ可シ

工藝犯則

第百七十一條

原第四百十三條

外國ニ輸出ス可キ佛蘭

西國ノ製造品ノ性質美惡及ヒ其大小等ヲ定ムル為メ設ケタル公ケノ規則ヲ破リシ者ハ二百フランクヨリ少カラス三千フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ且其品物ヲ沒收セララル可シ但シ此二箇ノ刑ハ其時ノ景況ニ因リ帶連シテ言渡シ又ハ其一箇ノミヲ言渡ス可シ

第百七十二條

原第四百十四條

暴行脅迫及ヒ偽計等ヲ

用ヒ強テ工丁ノ雇直ヲ昂低セントスル目的又ハ操作工作等ヲ自由ニ行フノ妨ヲ為ス可キ目的等ヲ以テ工丁ヲレテ同時ニ皆其操作ヲ停止セシメ及ヒ停止セシメント為シ又ハ其停止シタル操作ヲ多少ノ時間其儘ニ經過セシノ及ヒ經過セシメント為タル者ハ六日ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六フランクヨリ少カラス二千フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡

ヲ受ケ又ハ其二箇ノ刑中ノ一箇ノミニ處セラル可シ

第七十三條 原第四百五條 預定ノ企ニ因テ前條ニ

記シタル罪ヲ犯セシ時ハ裁判所ノ命ヲ以テ

其犯人ニ於テ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多

カラサル時間政府ノ監察ヲ受ク可シ

第七十四條 原第四百十六條 工丁財主及ヒ諸般ノ工

作ノ暗算ヲ為ス者等ニ於テ預定ノ企ヲ用ヒ

言説シタル微賍抑制強迫等ノ方略ニ因リ操

作工作等ヲ自由ニ行フノ妨ヲ為タル時ハ六

日ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサル時間禁

錮ノ刑ニ處セラレ且十六フランクヨリ少カ

ラス三百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言

渡ヲ受ケ或ハ此二箇ノ刑中ノ一箇ノミニ處

セラル可シ

第七十五條 原第四百十七條 佛蘭西國ノ工作ヲ妨害

セント為スノ意ヲ以テ其工作場ノ指揮者家

僮及ヒ工丁等ヲ故ラニ外國ニ出行セシメシ

者ハ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル

時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十フランクヨ



リ少カラス三百フランクヨリ多カラサル罰  
金ノ言渡ヲ受ク可シ

第百七十六條

原第四百十八條

製造所ノ指揮者管家及

ヒ工丁等ノ外國人又ハ外國ニ居住スル佛蘭  
西人等ニ其製造ノ奧秘ヲ漏洩シ又ハ漏洩セ  
ント為タル者ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ  
多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五百  
フランクヨリ少カラス二万フランクヨリ多  
カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ  
又其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリシテ五年ヨ

リ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十  
條原第四百十二條ニ記シタル民權ヲ行フノ禁ヲ受ケ

且同上ノ期間間政府ノ監察ヲ受ク可シ

若シ其奧秘ヲ佛蘭西國內ニ居住スル佛蘭西  
人ニ漏洩セシ時ハ其犯人ニ於テ三月ヨリ少  
カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ  
處セラレ且十六フランクヨリ少カラス二百  
フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク  
可シ

若シ政府ニ屬スル兵器彈藥等ヲ製造スル奧

秘ヲ漏洩シタル時ハ其犯人ニ於テ必ス此一條ノ第一項及ヒ第三項等ニ記シタル刑ノ至重ノ刑ニ處セラル可シ

貿易犯則

第一百七十七條 原第四百十九條 故意ヲ以テ衆人ニ詐譎及ヒ讒誣等ノ風評ヲ流布シ又ハ鬻賣者ノ期望スル估直ヨリ更ニ饒價ニ買収セント為シ又ハ同一ノ商品ヲ所有スル其首者ノ其商品ヲ鬻賣スルヲ停止シ或ハ善價ニ非レハ鬻賣ス可カラサルヲ合議シ又ハ其他何レノ

方法ヲ論セス欺詭ノ計謀ヲ用フル等ノ事ヲ以テ商品紙幣國債ノ證券等ノ價額ヲシテ貿易ノ自由ニヨリ自然ニ販賣發行等ヲ相競ヒ生スル所ノ價額ヨリ更ニ低昂セシメタル者ハ一月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五百フランクヨリ少カラス一万フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ其上裁判所ノ命ヲ以テ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ク可シ

第百七十八條 原第四百二十條 若シ穀物及ヒ不良ノ穀物又ハ穀粉及ヒ諸般ノ粉ト為ス可キ物又ハ麵包葡萄酒及ヒ其他ノ飲料等ニツキ前條ニ記シタル罪ヲ犯セシ者ハ二月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且千フランクヨリ少カラス二万フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ且其犯人ハ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ク可シ

第百七十九條 原第四百三十三條 金銀ノ性質及ヒ真正ナ

リト為シ販賣シタル贋造ノ石類ノ性質又ハ諸般ノ商品ノ性質等ニツキ買主ヲ欺キシ者及ヒ贋造シタル度量ノ具ヲ用ヒテ販賣ヲ為ス品物ノ分量ヲ偽リシ者等ハ三月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且償還ノ金額ノ四分一ヨリ多カラス五十フランクヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

此輕罪ニ管シタル品物及ヒ其價銀等ニ於テ尚ホ其買主ニ屬スル時ハ之ヲ沒收シ且其贋

造シタル度量ノ具モ亦没収シテ之ヲ破毀ス  
可シ

又裁判所ノ意ヲ以テ擇ミタル場所ニ裁判ノ  
言渡書ヲ貼附シ且其裁判言渡ノ摘抄又ハ全  
文等ヲ刻期刊行ノ書ニ印シテ其費用ヲ犯人  
ヨリ償ハシム可シ

第百八十條原第四百條若シ賣主及ヒ買主等ノ商  
業ヲ為スニツキ互ニ法律ニ於テ定メサル度  
量ヲ用ヒシ時ハ賣主ニ於テ其犯禁ノ度量ヲ  
用ヒ買主ヲ欺クト雖モ買主ニ於テ賣主ニ對

シ訴訟ヲ上告ス可ラス但シ此規則ト犯禁ノ  
度量ノ具ヲ用ヒ及ヒ欺偽等ニツキ其犯人ヲ  
刑ニ處ス可キ規則ト相抵觸スルヲナカル可  
シ  
欺偽ヲ為タル時ハ其犯人ニ於テ前條ニ記シ  
タル刑ニ處セラル可シ  
犯禁ノ度量ヲ用ヒシ罪ハ第四百四十七條原  
第四百六以下ニ記スル所ノ註誤ノ罪ヲ刑ス可  
キ刑ヲ以テ罰ス可シ

牧畜犯則

新法  
刑  
法  
卷  
二

第百八十一條 原第四百十九條 傳染病ニ罹ルノ疑アル禽獸等ヲ看守スル者ノ其ゴムミーンノイニ速ニ其事ヲ告知セサル者及ヒマイルニ其事ヲ告知スト雖モ其回報ヲ得ルノ前其禽獸ヲ鎖閉シ置サル者等ハ六日ヨリ少カラス二月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六フランヨリ少カラス二百フランヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第百八十二條 原第四百六十一條 官署ノ禁制ニ背キ傳染病ニ罹リタル禽獸等ヲシテ他ノ禽獸等ト雜

處セシメシ者ハ二月ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百フランヨリ少カラス五百フランヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第百八十三條 原第四百六十一條 若シ前條ニ記載シタル禽獸等ヲ雜處セシメシニヨリ他ノ禽獸等ヲシテ傳染病ニ罹ラシメシ時ハ官署ノ禁制ニ背キ其罪ヲ犯シタル者ニ於テ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百フランヨリ少カラス千フラン

クヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ但  
シ此規則ト禽獸ノ傳染病ニ管シタル規則ヲ  
行フ事及ヒ其規則ニ背キタル罪ヲ罰ス可キ  
事等ト相抵觸スルヲナカル可シ

### 賊盜律

#### 國事犯罪

第百八十四條原第七條 佛蘭西へ對シ兵器ヲ弄ス  
ル佛蘭西人ハ死刑ニ處スヘシ  
第百八十五條原第七條 外國政府及ヒ其官吏等ヲ  
シテ佛蘭西へ對シ拒敵ヲナサシメ又ハ戰ヲ  
構セシメ又ハ其拒敵戰鬥ヲ為スノ方略ヲ得  
セシムル為メ其外國政府及ヒ其官吏ト姦謀  
ヲ構ヘ或ハ交通ヲ為シタル者等ハ死刑ニ處  
ス可シ

縱令ヒ此姦謀及ヒ交通等ヨリ拒敵ノ事ヲ生  
スルニ至ラサル場合ト雖モ亦此規則ニ循フ  
可シ

第百八十六條原第七十七條 國敵ノ佛蘭西領地及ヒ屬  
地ニ進入スル事ヲ容易ナラシメ又ハ國敵ニ  
佛蘭西ニ屬スル都府、城寨、陣營、港口、倉庫、武器、  
製造所、船舶等ヲ附與シ又ハ國敵ニ兵卒、民人、  
金銀、食料、兵器、彈藥等ノ資助ヲ給與シ又ハ士  
官兵、卒水夫及ヒ其他ノ人民等ノ皇帝及ヒ國  
家ニ對シタル忠誠ノ心ヲ蠱惑シ或ハ其他ノ

方略ヲ以テ佛蘭西海陸ノ所領又ハ佛蘭西ノ  
海陸軍等ニ向ヒ敵兵ノ進撃ヲ助ク可キ為メ  
國敵ト共ニ姦謀ヲ構ヘ又ハ交通ヲ為タル者  
等ハ死刑ニ處ス可シ

第百八十七條原第七十八條 敵國ノ臣民ト交通ノ事ニ  
於テ前條ニ記シタル重罪ノ一箇ヲ目的ト為  
スヲナシト雖モ佛蘭西又ハ佛蘭西ノ與國ノ  
兵事及ヒ政事等ノ害トナル可キ報知ヲ敵國  
ニ與フル事ノ生スルニ至ル時ハ其交通ヲ為  
シタル者ヲ囚獄ノ刑ニ處ス可シ但シ此規則

ト間諜ノ行ヲ以テ交通ヲナシ敵ニ其報知ヲ  
與ヘタル時更ニ重刑ニ處ス可キ規則ト相抵  
觸スルヲナカル可シ

第百八十八條原第七條第百八十五條原第七條及ヒ

第百八十六條原第七條ニ記シタル姦謀及ヒ交

通等ハ佛蘭西ヘ對シテ行ヒシ時ト雖モ又ハ

佛蘭西ノ敵ト兵ヲ構スル佛蘭西ノ與國ヘ對

シテ行ヒシ時ト雖モ皆此二條ニ記シタル刑

ヲ以テ犯者ヲ處ス可シ

第百八十九條原第八條佛蘭西ノ長官政府ノ官吏

及ヒ其他職掌景況等ニ因リ商議出兵等ノ密  
事ノ委任ヲ受ケ又ハ其事ニ參知スルヲ得  
タル者等ノ若シ其機密ヲ外國又ハ敵國ノ官  
吏ハ洩漏シタル時ハ第百八十五條原第七條  
ニ記シタル刑ニ處セララル可シ

第百九十條原第八條佛蘭西ノ長官政府ノ官吏及

ヒ政府ヨリ委任ヲ得タル者等ノ其職掌ニ因

テ城寨、兵器、製造所、港口等ノ圖面ノ任ヲ受ケ

其圖面ノ一箇ヲ敵國又ハ敵國ノ官吏等ニ附

與セシ時ハ死刑ニ處セララル可シ



若シ其圖面ヲ中立國又ハ與國ノ官吏等ニ附  
 與セシ時ハ囚獄ノ刑ニ處セラル可シ  
 第百九十一條原第八十二條賄賂偽計強奪等ニ因リ其  
 圖面ヲ得テ之ヲ敵國又ハ外國ノ官吏等ハ附  
 與シタル前條ニ記セシ官吏外ノ者ハ其官吏  
 ト同一ノ刑ニ處セラル可シ但シ其圖面ヲ敵  
 國ハ附與セシ者ト外國ハ附與セシ者トノ刑  
 ハ前條ノ區別ニ同シ  
 其圖面ヲ敵國又ハ外國等ハ附與セシ者ノ若  
 シ姦兇ノ所為ニ非スシテ之ヲ得タル時第百

九十條原第十一條ハ首項ニ記シタル場合ニ於テ  
 ハ流刑ニ處セラル可シ  
 第百九十條原第八十一條ノ次項ニ記シタル場合ニ  
 於テハ二年ヨリ少カラズ五年ヨリ多カラサ  
 ル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ  
 第百九十二條原第八十三條敵國ノ謀人又ハ兵卒等ヲ  
 匿シ置キ及ヒ匿シ置カシメシ者等ノ其事ノ  
 發露スル時ハ死刑ニ處セラル可シ  
 第百九十三條原第八十四條外國ハ對シ政府ヨリ允許  
 セサル拒敵ノ所行ヲ為スニ因リ外國ヲシテ

我國ニ對シ構兵ノ事ヲ公告スルニ至ラシムル者ハ追放ノ刑ニ處セラル可シ若シ其事ニ因テ現ニ戰爭ニ至ル時ハ流刑ニ處セラル可シ

第百九十四條原第八十五條政府ヨリ允許セサル所行ヲ為スニ因リ外國ヲシテ佛蘭西人ハ對シ其報復ヲ行フニ至ラシムル者ハ追放ノ刑ニ處セラル可シ

第百九十五條原第八十六條皇帝ノ生命及ヒ身體等ハ對シタル暴行ハ尊屬ノ親ヲ弑シタル刑ヲ以

テ罰ス可シ

皇族ノ生命ニ對シタル暴行ハ死刑ヲ以テ罰ス可シ

皇族ノ身體ハ對シタル暴行ハ城寨中へ謫スル流刑ヲ以テ罰ス可シ

皇帝ノ身體ハ對シ公然ニ行ヒタル諸般ノ不敬ハ六月ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處シ且五百フランクヨリ少カラス一萬フランクヨリ多カラサル罰金ヲ以テ罰ス可シ

其犯人ハ其禁錮ノ期限ニ均シキ時間第四十條原第四十二條ニ記シタル民權ノ全部又ハ一部ヲ行フ可カラサルノ禁ヲ受ク可シ但シ其期限ハ刑ニ處セラレシ日ヨリシテ算ス可シ皇族ヘ對シ公然ニ行ヒタル諸般ノ不敬ハ一月ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處シ且百「フラン」クヨリ少カラス五千「フラン」クヨリ多カラサル罰金ヲ以テ罰ス可シ

第百九十六條原第八十七條政府ヲ覆ヘシ又ハ皇嗣ノ

順序ヲ紊リ又ハ臣民ヲシテ帝權ヲ拒ミ兵器ヲ弄セシメント為ス等ノ事ヲ目的ト為タル暴行ハ城寨中ニ謫スルノ流刑ヲ以テ罰ス可シ第百九十七條原第八十八條其事ヲ既ニ行ヒ又ハ將ニ行ントスルノミ等ヲ以テ暴行ノ罪ナリトス第百九十八條原第八十九條第百九十五條原第八十六條及ヒ第百九十六條原第八十七條ニ記シタル重罪ヲ目的ト為タル陰謀ヲ醸レテ之ヲ行ハントスル預備ヲナスノ所為ヲ既ニ行ヒ又ハ開手シタル等ノ時ハ流刑ヲ以テ罰ス可シ

若シ之ヲ行ハントスル預備ヲ為スノ所為ヲ  
 既ニ行ヒ又ハ開手シタル等ノ事ナキ時ハ囚  
 獄ノ刑ヲ以テ罰ス可シ  
 二人以上ニ於テ其事ヲ行ハント商議ノ既定  
 シタル時ハ陰謀ノ罪ナリトス  
 第百九十五條原第八十六條及ヒ第百九十六條原第八十七條  
 七ニ記シタル重罪ノ犯ヲ終成ス可キ陰謀ヲ  
 醸ス可キ發言ヲナス者アリト雖モ協議セサ  
 ル時ハ其發言ノ者ヲ一年ヨリ少タラス五年  
 ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處シ且其犯

人ハ第四十條原第四十二條ニ記シタル權ノ全部又  
 ハ一部ヲ行フノ禁ヲ受ク可シ  
 第百九十九條原第九十條第百九十五條原第八十六條ニ記  
 シタル重罪ノ犯ヲ行ハント一人ニ於テ決定  
 ヲ為シ其行ハントスルノ所為ヲ他人ノ助ケ  
 ナク自カラ之ヲ為シ及ヒ為サントシタル時  
 等ハ囚獄ノ刑ニ處ス可シ  
 第二百條原第九十一條臣民ヲシテ互ニ兵器ヲ弄セシ  
 メ及ヒ兵器ヲ弄セシメントシテ内亂ヲ起サ  
 ントナシ又ハ一箇ノコトニ及ヒ數箇ノ

「コムミューン」等ニ於テ亂妨、亂殺、掠奪等ヲ為ス  
等ノ事ヲ目的ト為シタル暴行ハ死刑ヲ以テ  
罰ス可シ

此重罪中ノ一ヲ目的ト為タル陰謀及ヒ其陰  
謀ヲ醸サントスル發言等ヲ為タル者ハ第百  
九十八條原第九條ニ記シタル刑ヲ以テ罰ス可  
シ但シ其陰謀ノ罪ノ刑ト陰謀ヲ醸ス可キ  
ヲ發言シタル罪ノ刑トハ第百九十八條原第  
九條ニ記シタル區別ニ循フ可シ

第二百一原第九條條 正當ノ威權アル者ノ命及ヒ

其允許等ナクシテ兵器ヲ弄シタル羣聚ヲ募  
聚シ或ハ募聚セシメ又ハ兵卒ヲ雇ヒ及ヒ雇  
ハシメ又ハ兵卒ヲ募聚シ或ハ募聚セシメ又  
ハ兵卒ニ兵器及ヒ彈藥等ヲ給與シタル等ノ  
事ヲ為ス者ハ死刑ニ處セラル可シ

第二百二原第九條條 正當ノ威權ナク又ハ適當ノ  
道理ナクシテ一軍一隊一大船隊一小船隊兵  
船城寨陣營港口都府等ノ指揮ヲ執行ヒシ者  
ハ死刑ニ處セラル可シ  
政府ノ命ニ背キ兵事ニ管係シタル指揮ヲ持

スル者ハ死刑ニ處セラル可シ

軍隊ヲ解散シ又ハ離分不可キノ命ヲ受シ後  
猶ホ其軍隊ヲ屯聚シ置キタル指揮官ハ死刑  
ニ處セラル可シ

第二百三條原第九條兵權ヲ握リシ者ノ法律ニ於  
テ定メタル兵卒召募ノ方ヲ妨ケンカ為メ己  
ノ指揮スル兵ニ其求需及ヒ命令等ヲ為シ又  
ハ其求需及ヒ命令等ヲ為サシメシ者ハ流刑  
ニ處セラル可シ  
若シ其求需命令等ニ於テ其事ヲ現ニ行ヒシ

時ハ其犯人ヲ死刑ニ處スヘシ

第二百四條原第九條地雷火ヲ破裂セシメ政府ニ  
屬スル建造物倉庫兵器製造所船舶及ヒ其他  
ノ財産等ヲ焚毀シ又ハ毀損セシ者ハ死刑ニ  
處セラル可シ

第二百五條原第九條政府ニ屬スル領地財産金額  
城寨都府陣營倉庫兵器製造所港口船舶等ヲ  
強奪セント為シ及ヒ公然ノ財産又ハ臣民一  
般ノ財産等ヲ掠奪シ或ハ分配セシト為シ又  
ハ此重罪ヲ行フ者ヲ扞制スル政府ノ兵力ヲ

襲撃シ或ハ抗拒ス可キ為メ兵器ヲ弄シタル  
 群聚ノ首トナリ又ハ其羣聚中ノ職務ヲ行ヒ  
 或ハ指揮役トナリタル者等ハ死刑ニ處セラ  
 ル可シ  
 如此群聚ヲ募聚スルノ指揮ヲ為シ又ハ其群  
 衆ヲ煽動シ及ヒ其規律ヲ立テ又ハ故ラニ其  
 群衆ニ兵器彈藥其他兇行ヲ為ス可キ器具等  
 ヲ給與シ及ヒ食料ヲ餉シ又ハ其他ノ方略ヲ  
 以テ其羣聚ノ指揮ヲ為ス者ト交通シタル者  
 等ハ死刑ニ處セララル可シ

第二百六條

原第九十七條

群衆ヲ為タル者ヲ第百九十

五條原第八十六條第百九十六條原第七十八條第二百條原

一十條等ニ記シタル重罪犯ノ一箇及ヒ數箇ヲ

行ヒ又ハ行ハント試ミ為タル時其群衆中ノ

政府ノ命ニ抗シ集會セシ場所ニ於テ逮捕ヲ

受シ者ハ其等級ノ區別ヲ論セス死刑ニ處セ

ラル可シ

其集會ノ場所ニ於テ逮捕ヲ受シニ非スト雖

モ其政府ノ命ニ抗シテ指揮ヲ為シ或ハ其群

衆ノ中ニ於テ指揮役及ヒ或ル職務ヲ行ヒシ

者等ハ死刑ニ處セラル可シ

第二百七條原第九條政府ノ命ニ抗シテ會集ヲ為

ト雖モ第百九十五條原第八條第百九十六條原

七十八條原第九條等ニ記シタル重罪犯ノ

一箇及ヒ數箇ヲ以テ目的ト為シ又ハ終成シ

タルニ非サル時ハ前條ニ記シタル群衆中ノ

者ノ其集會ノ場所ニ於テ逮捕ヲ受ルト雖モ

其指揮及ヒ或ル職務等ヲ行ハサル時ハ流刑

ニ處セラル可シ

第二百八條原第九條前數條ニ記シタル群衆ノ目

的及ヒ情態等ヲ知リ威迫ニ因ラスシテ其群

衆ニ匿屋及ヒ隱匿ノ地又ハ集會所等ヲ貸與

ハタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第二百九條原第一百條其群衆中ニ於テ指揮役及ヒ或

ル職務等ヲ行フナク文武官吏ノ叱責ニ因

リ直チニ其黨ヲ離脱スル者又ハ文武官吏ノ

叱責ノ後ト雖モ其政府ノ命ニ抗シテ集會ヲ

為タル場所外ニ於テ抗拒ヲ為スナク且兵

器ヲ弄スルナクシテ逮捕ヲ受シ者等ハ政

府ノ命ニ抗シタル所行ノ為メ刑ヲ受クル事



ナカル可シ

但シ此場合ニ於テ犯人ハ其一己ニ於テ行フ  
タル拾段ノ重罪ニツキ罰ヲ受クルノミト雖  
モ五年ヨリ少カラズ十年ヨリ多カラサル時  
間政府ノ監察ヲ受ク可シ

第二百十條

原第百一條

兵器トハ斫搦毆等ヲ為ス諸

器械ヲ云フ

挿懐ノ刀子剪刀及ヒ尋常ノ杖等ハ人ヲ殺シ  
又ハ毆傷ヲナス可キ為メ用ヒタル時ノ外之  
ヲ兵器ト云フ可ラス

第二百十一條

原第百八條

國ノ内部及ヒ外部ノ安寧

ヲ害ス可キ陰謀及ヒ重罪ノ犯等ヲ為シタル  
者ノ其隱謀及ヒ重罪ノ犯等ヲ為シ又ハ為シ  
トセシ前且訴訟ニ及フ可キ前等ニ於テ政府  
又ハ政事ニ參スル官吏及ヒ裁判ノ取締役等  
ニ其隱謀及ヒ重罪又ハ其首從等ヲ明告シタ  
ル者又ハ既ニ訴訟ニ及フノ時ト雖モ其首從  
ヲ捕獲スル事ヲ助ケシ者等ハ其隱謀及ヒ重  
罪ノ犯等ヲ為シタル者ノ刑ヲ免カル可シ  
然レ其事ヲ明告シ又ハ捕獲ノ事ヲ助ケシ犯

人ハ其一生中又ハ或ル期限内中政府ノ監察ヲ受ク可キ事ヲ言渡サル可シ

抗命

第二百十二條原第九條 裁判所ノ命ヲ傳フル官吏田野森林等ノ看守人政府ノ兵隊租稅收納ノ官吏犯人ヲ逮捕スル官吏互市海口ノ稅官訴訟ノ品物ヲ管守スル官吏政事裁判等ノ事務ニ管スル官吏等ノ法律公命裁判所ノ命等ヲ行フ時ニ於テ其諸般ノ官吏へ對シ襲撃ヲ為シ及ヒ暴行ノ所為ヲ以テ抗拒ヲ為タル者ハ

其時ノ景況ニ從ヒ官署ノ命ニ抗スルノ輕罪又ハ官署ノ命ニ抗スルノ重罪アリトス

第二百十三條原第十條 若シ兵器ヲ弄シタル者ノ

二十人以上ニシテ前條ノ罪ヲ犯セシ時ハ其犯人ニ於テ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ但シ兵器ヲ弄セサル時ハ徒刑場内ニ於テ驅役スル刑ニ處セラル可シ

第二百十四條原第十一條 若シ兵器ヲ弄シタル者ノ三人ヨリ二十人ニ至ルノ黨衆ヲ以テ官署ノ命ニ抗スルノ罪ヲ犯セシ時ハ其犯人ニ於

テ徒刑場内ニ於テ驅役スル刑ニ處セラル可  
シ但シ兵器ヲ弄セサル時ハ六月ヨリ少カラ  
ス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セ  
ラル可シ

第二百十五條 原第二百十二條 兵器ヲ弄シタル者ノ一  
人又ハ二人ニシテ官署ノ命ニ抗スルノ罪ヲ  
犯シタル時ハ其犯人ニ於テ六月ヨリ少カラ  
ス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セ  
ラル可シ但シ兵器ヲ弄セサル時ハ六月ヨリ  
少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑

ニ處セラル可シ

第二百十六條 原第二百十三條 黨衆ヲ為シテ官署ノ命  
ニ抗シタル時其黨衆中ノ職務ヲ行ハサル者  
ニ於テ官吏ノ叱責ニ因リ直チニ其黨ヲ離脱  
シタル時又ハ官吏ノ叱責ノ後ト雖モ官署ノ  
命ニ抗シタル場所外ニ於テ抗拒スル事ナク  
且兵器ヲ弄スル事ナク逮捕ヲ受ケシ時等ハ  
其犯人ヲ第二百九條 原第一百條ニ記シタル規則ヲ  
以テ處置スヘシ

第二百十七條 原第二百十四條 重罪犯及ヒ輕罪犯等ノ

黨衆ニ於テ其中ノ二人以上分明ナル兵器ヲ弄シタル時ハ其黨衆ヲ總稱シテ兵器ヲ弄シタル黨衆ト云

第二百十八條原第二百五條 兵器ヲ弄シタリト稱ス可ラサル黨衆中ニ加ハリ暗藏ノ兵器ヲ弄シタル者ハ兵器ヲ弄シタル黨衆中ニ加ハリシ時ト同刑ヲ受ク可シ

第二百十九條原第二百十六條 官署ノ命ニ抗スル所行ヲ為シタル時間ニ其犯ノ重罪及ヒ輕罪ノ首謀ニ於テ若シ其官署ノ命ニ抗スルノミノ罪

ヨリ更ニ重罪ヲ犯シタル時ハ其罪ニツキ行フヘキ刑ニ處セラル可シ

第二百二十條原第二百十八條 官署ノ命ニ抗セシ罪ニツキ禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケシ犯人ハ其上十六フランクヨリ少カラス二百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第二百二十一條原第二百十九條 第一 製造所ニ於テ使役スル工丁及ヒ雇

工  
第二 貧院ニ入りタル者

第三 被告ノ囚徒又ハ刑ノ言渡ヲ受ケシ  
囚徒

此等ノ者ノ或ハ兵器ヲ弄シ或ハ兵器ヲ弄セ  
シニ非スト雖モ官署及ヒ取締ノ官吏又ハ政  
府ノ兵隊等ヘ對シ暴行及ヒ脅迫等ヲ為シタ  
ル黨衆ハ官署ノ命ニ抗シタル黨衆ナリト為  
シテ罰ス可シ

第二百二十二條 原第二百十條 既ニ他ノ輕罪及ヒ重  
罪等ヲ犯シタルノ訴訟ヲ受ケシ囚徒又ハ刑  
ノ言渡ヲ受シ囚徒等ノ後ニ於テ官署ノ命ニ

抗スルノ罪ヲ犯スニ因リ之ヲ刑ニ處スルノ  
法如左

既犯ノ重罪犯及ヒ輕罪犯等ニ因リ死刑又ハ  
無期ノ刑等ニ非サル刑ヲ受ケシ犯人ハ其刑  
期ノ終リシ後ニ於テ直チニ官署ニ抗スルノ  
罪ヲ犯シタル刑ニ處セラル可シ  
其他ノ犯人ハ上等裁判所ニ於テ罪ノ赦宥ヲ  
受ケ又ハ赦宥ヲ受ケテ送致スルノ言渡ヲ得  
タル後直チニ官署ノ命ニ抗スルノ罪ヲ犯シ  
タル刑ニ處セララル可シ

第二百二十三條 原第二百一十一條 官署ノ命ニ抗シタル首謀及ヒ官署ノ命ニ抗スルノ所行ヲ挑唆シタル者等ハ其刑期ノ終リシ後猶ホ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ別段ナル監察ヲ受ク可シ

盜官文書

第二百二十四條 原第二百五十五條 第一百十條 原第二百四十四條ニ記シタル所ノ竊取亡失及ヒ攘奪ノ罪ヲ犯シタル者ハ徒刑場内ニ於テ驅役スル刑ニ處セラル可シ

監守自盜

第二百二十五條 原第二百六十九條 収税官及ヒ公然ノ金銀ヲ管守スル者及ヒ算計ヲ為ス者等ノ公私ノ金銀及ヒ其金銀ノ證券又ハ其他職務ニツキ管守スル諸般ノ証券類及ヒ動産 金銀衣服家什等ノ搬運ヲ云ヘ等ヲ贓物ト為タル者ノ其贓物ニ於テ若シ三千フランク以上ノ額ニ當ル時ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第二百二十六條 原第七十條 其既ニ交収シ又ハ管守シタル金額及ヒ證券等ニ管スル時其交収シ

又ハ管守シタル額ノ三分一ニ均シク及ヒ過  
 キタル價額ヲ贓物トナシ又開手銀ヲ受ク可  
 キ交引舗ニ屬シタル交収セシ額及ヒ管守ス  
 ル額等ニ管スル時其開手銀ニ均シク及ヒ過  
 タル價額ヲ贓物トナシ又開手銀ナク年賦月  
 賦等ニ於テ交収セシ額ニ管スル時一月間ニ  
 交収シタル額ノ三分一ニ均シク及ヒ過タル  
 價額ヲ贓物ト為ス等ノ時ニ於テハ其贓物ト  
 為タル金額證券等ノ額ノ如何ナルヲ問ハス  
 亦其犯人ヲ有期ノ徒刑ニ處スヘシ

第二百二十七條

原第百七十一條

贓物ノ額ノ三千<sup>ラ</sup>フ

シク以下ニシテ且前條ニ記シタル額ニ至ラ  
 サル時ハ其犯人ニ於テ二年ヨリ少カラス五  
 年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ  
 其上日後公務ヲ行フ可カラサルノ言渡ヲ受  
 ク可シ

第二百二十八條

原第百七十二條

前三條ニ記シタル場

合ニ於テハ其犯人ニ於テ必ス償還ノ額ノ四  
 分一ヨリ多カラス十二分ノ一ヨリ少カラサ  
 ル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第二百二十九條 原第七十三條 裁判役支配人長官及

其他公務ニ管スル官吏等ノ其職掌ニ於テ  
管守ヲ為ス証書類及ヒ其職掌ニツキ交付ヲ  
得タル證書類等ヲ故ラニ遺失シ或ハ藏匿シ  
又ハ贓物ト為タル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラ  
ル可シ

政府ヨリ委任ヲ受ケシ者及ヒ下等ノ官吏又  
ハ公然ノ金銀及ヒ證書類等ヲ管守スル官署  
ノ委任ヲ受ケシ者及ヒ下等官吏等ノ若シ同  
罪ヲ犯シタル時ハ同刑ニ處セラル可シ

第二百三十條 原第四百六十二條 若シ田野及ヒ森林ノ管

守人又ハ取締ノ官吏等ニ於テ其位階身位等  
ヲ問ハス第二百三十二條等 原第三百七十九  
條ヨリ第四百六  
十三條ニ開具シタル輕罪ヲ犯セシ時ハ其犯  
人ニ於テ一月ヨリ少カラス又其輕罪ノ他ノ  
犯人ヲ處スヘキ至重ノ刑ノ更ニ其三分一ヲ  
増加シタル時間ヨリ多カラサル期限間禁錮  
ノ刑ニ處セラル可シ

第二百三十一條 原第二百五十五  
條第二項 若シ管守人ニ於テ自カラ其罪ヲ犯シタル時



ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

強竊盜

第二百三十二條 原第三百七十九條 己レニ屬セサル物ヲ

盜ミシ罪ヲ名ケテ盜罪ト云フ

第二百三十三條 原第三百八十一條

第一 夜間盜ヲ為シ

第二 二人以上ニテ盜ヲ為シ

第三 盜者又ハ其中ノ一人ニ於テ分明ノ

兵器及ヒ暗藏ノ兵器等ヲ弄シ

第四 其兵器ヲ弄シタル盜者ノ人ノ居住

シ及ヒ居住ス可キ家屋又ハ房室及

ヒ其房室ニ屬スル房舎等ノ外部ヲ

破壊攀援シ及ヒ偽鑰ヲ用ヒテ其罪

ヲ犯シ又ハ長官及ヒ文武官吏等ノ

名稱ヲ詭リ或ハ長官及ヒ官吏等ノ

衣服ヲ借用シ或ハ文武官吏ノ命ヲ

詭リ其罪ヲ犯シ

第五 暴行ヲ為シ又ハ兵器ヲ用ヒント脅

迫シテ其罪ヲ犯シ

此五箇ノ所行ヲ連帶シテ盜罪ヲ犯シタル各

人ハ無期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第二百三十四條原第三百八十二條暴行ヲ以テ盜罪ヲ犯シタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

若シ其犯罪ノ時ニ於テ行フタル暴行ニ因リ

人ニ砒痕傷痕等ヲ遺シタル者ハ此所行ノミ

ヲ以テ其犯人ヲ無期ノ徒刑ニ處ス可シ

第二百三十五條原第三百三十三條第二百三十三條原第三百

一八十二記シタル五箇ノ所行中ノ其二箇ヲ行

ヒ街衢ニ於テ盜罪ヲ犯シタル者ハ無期ノ徒

刑ニ處セラル可シ

若シ第二百三十三條原第三百一十一條ニ記シタル五

箇ノ所行中ノ其一箇ヲ行ヒ街衢ニ於テ盜罪

ヲ犯シタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

其他ノ場合ニ於テハ其犯人ヲ徒刑場内ニ於

テ驅役スル刑ニ處ス可シ

第二百三十六條原第三百四十四條第二百三十三條原第三百

一八十一第四項ニ記シタル手段ノ一箇ヲ以テ

盜罪ヲ犯シタル者ハ人ノ住居スルニ用ユル

事ナク且人ノ住居スル家屋ニ屬セシモノニ

非サル建造物園庭繞圍等ヲ破壊攀援シ又ハ

偽鑰ヲ用ヒテ潜入シ又ハ唯其破壊ノ所為ヲ  
家屋ノ内部ノミニ行ヒシ等ノ時ト雖モ其犯  
人ニ於テ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第二百三十七條 原第三百八十五條

第一 夜間盜罪ヲ犯シ

第二 人ノ居住スル家屋又ハ佛蘭西國中

ニ於テ法律ニ循ヒ准定セシ禮拜ノ

為メ設ケタル建造物等ニ於テ盜罪

ヲ犯シ

第三 二人以上ニテ此盜罪ヲ犯シ且其犯

人中ノ一人ニ於テ分明ノ兵器及ヒ  
暗藏ノ兵器等ヲ弄シ

此三箇ノ所行中ノ其二箇ヲ行フテ盜罪ヲ犯  
シタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第二百三十八條 原第三百八十六條

第一 夜間二人以上ニテ盜罪ヲ犯シ又ハ

夜間一人及ヒ晝間二人以上等ニテ

人ノ居住シ及ヒ居住ニ用フ可キ家

屋又ハ佛蘭西國ニ於テ法律ニ循ヒ

准定セシ禮拜ノ為メ設ケタル建造

物等ニ於テ盜罪ヲ犯セシ時

第二 盜罪ヲ犯セシ場所ノ人ノ居住ニ及

ヒ居住ニ用フ可キ家屋ニ非スレテ

且晝間一人ニテ盜ヲ為タル時ト雖

モ其犯人ニ於テ分明ノ兵器及ヒ暗

藏ノ兵器等ヲ弄セシ時

此等ノ場合ニ於テハ其犯人ヲ徒刑場内ニ於

テ驅役スル刑ニ處ス可シ

第二百三十九條原第二百三十九條緘印ヲ破毀シテ行フ

タル竊盜ハ總テ物ヲ破壞シテ行フタル竊盜

ト同刑ニ處セラル可シ

第二百四十條原第二百四十條緘印ノ破毀又ハ書類ノ

竊取亡失及ヒ攘奪等ノ事ニツキ人ニ對シテ

暴行ヲ加フルノ罪アル時ハ其犯人ニ於テ有

期ノ徒刑ニ處セラル可シ但シ此規則ト其暴

行及ヒ其暴行ニ附加シテ犯シタル重罪等ノ

種類ニ因リ有期ノ徒刑以上ノ刑ニ處ス可キ

規則ト相抵觸スル事ナカル可シ

第二百四十一條原第二百四十一條人ノ居住スル家屋ト

ハ現ニ人ノ居住スルニ非スト雖モ人ノ居住

不可キ為ノ建設シタル諸般ノ家屋厩舎又ハ  
 搬運ヲ為ス可キモノト雖モ人ノ居住ス可キ  
 小舎及ヒ其用法ヲ問ハス大ナル塀牆内ニ更  
 ニ牆塀ヲ以テ圍繞シタルモノト雖モ厩舎又  
 ハ穀類及ヒ耕作ノ器具類等ヲ藏スル小舎又  
 ハ鷄鶩ノ類ヲ蓄ヒ置ク小舎又ハ馬房及ヒ其  
 他ノ建造物等ノ如ク人ノ居住ス可キ家屋ニ  
 附加ス可キ建造物等ヲ指シテ云

第二百四十二條 原第三百一十一條 繞圍ヲ設ケシ地トハ  
 溝渠又ハ柵板植籬編牆及ヒ其他何物ヲ論セ

ス總テ塀牆ト為ス可キ物等ヲ用ヒ圍繞セシ  
 地ノ其塀牆溝渠ノ高深舊壤等ヲ問ハス且鑰  
 及ヒ其他ノ方法等ヲ以テ開閉スルヲ用ヒ  
 ス又ハ透觀ス可キ門扉ヲ設ケタル地或ハ平  
 生其門戸ヲ洞開セシ地等ヲ指シ云

第二百四十三條 原第三百九十二條 造營ニ用ヒタル品物  
 ノ如何ナルヲ問ハス田野ニ於テ獸類ヲ入置  
 ク為メ設ケタル搬運ヲ為ス可キ欄圍モ亦名  
 ケテ繞圍ヲ設ケシ地ト云フ但シ其獸類ノ看  
 守人ノ為メ設ケタル搬運ヲ為ス可キ小舎及

ト其他看守人ノ為メ風雨ヲ蔽フ可キ小舎等  
ニ屬スル時ハ之ヲ人ノ居住スル家屋ニ屬セ  
シ物ナリト云

第二百四十四條 原第三百三十三條 塀牆瓦板門牕鎖戸鎖  
及ト其他何物ヲ問ハス人ノ行路ヲ鎖閉シ及  
ト防遮ス可キ為メ設ケタル器具及ト諸般ノ  
圍繞等ヲ強テ扭閉シ又ハ毀壞シ及ト除去ス  
ル等ノ事ヲ稱シテ破壊ト云

第二百四十五條 原第三百三十四條 破壊ヲ分テ二種トス  
一ヲ外部ノ破壊トシ一ヲ内部ノ破壊トス

第二百四十六條 原第三百三十五條 外部ノ破壊トハ家屋  
及ト家屋ニ屬スル厩舎又ハ穀類及ト耕作ノ  
器具類等ヲ藏スル小舎又ハ鷄鶩等ノ類ヲ蓄  
ヒ置ク小舎其他繞圍ヲ設ケタル場所或ハ家  
屋ニ屬シタル場所又ハ房室等ニ入ラントシ  
テ為タル破壊ヲ云

第二百四十七條 原第三百三十六條 内部ノ破壊トハ前條  
ニ記シタル場所ニ入りタル後其内部ニアル  
門戸塀牆又ハ板厨及ト其他總テ鎖ヲ施シタ  
ル家具等ニ為タル破壊ヲ云

何物ヲ論セス總テ財産ヲ入レタル箱匣笥櫃  
又ハ紮住シタル行李及ヒ其他緊ク掩蓋シタ  
ル家具類等ヲ犯人ノ入リシ場所ニ於テ破毀  
スルコトナク其儘ヲ用ヒ奪ヒ去ルト雖モ亦内  
部ノ破壊ト云

第二百四十八條 原第三百七條 塀牆門戸屋蓋及ヒ其  
他ノ繞圍等ヲ越テ家屋及ヒ家屋ニ屬スル建  
造物廨舍或ハ穀類及ヒ耕作ノ器具類等ヲ藏  
スル小舎又ハ鷄鶩ノ類ヲ蓄ヒ置ク小舎又ハ  
其他諸般ノ建造物園庭及ヒ圍繞ヲ為シタル

地等ニ入ルヲ名ケテ攀援ト云  
出入ノ為メ設ケシモノニ非ラサル地道ヨリ  
潜入シタルハ攀援ト同罪ナリトス

盜官私牛馬及田野穀麥

第二百四十九條 原第三百八條 田野ニ於テ物ヲ負載  
セシメ又ハ車ヲ挽カシメ或ハ騎行ニ用フル  
馬及ヒ其他ノ獸類又ハ大小ノ家畜獸及ヒ耕  
作ノ器具等ヲ盜ミ又ハ盜マント為タル者ハ  
一年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間  
禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「」ランクヨリ少

カラス五百フランクヨリ多カラサル罰金ノ  
 言渡ヲ受ク可シ  
 賣鬻ス可キ木材及ヒ石鑛ニアル石又ハ池沼  
 ニ養フ魚等ヲ盗ミシ者ハ同上ノ刑ニ處セラ  
 ル可シ  
 田野ニ於テ既ニ地ヨリ刈収セシ穀類及ヒ其  
 他要用ノ産物又ハ堆積シタル刈収セシ穀類  
 草類等ヲ盗ミ及ヒ盗マント為シタル者八十  
 五日ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間  
 禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六フランクヨリ少

カラス二百フランクヨリ多カラサル罰金ノ  
 言渡ヲ受ク可シ  
 馬車及ヒ物ヲ負載セシムル獸類等ヲ用ヒ又  
 ハ夜間及ヒ晝間等ヲ論セス數人ニ於テ前文  
 ニ記シタル盜罪ヲ犯セシ者ハ一年ヨリ少カ  
 ラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處  
 セラレ且十六フランクヨリ少カラス五百フ  
 ランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可  
 シ  
 未タ地ヨリ刈収セサル穀類及ヒ其他ノ地ヨ



リ生シタル要用ノ産物等ヲ籃囊及ヒ其他ノ  
器具又ハ馬車及ヒ物ヲ負載セシムル獸類等  
ヲ用ヒ又ハ夜間及ヒ晝間等ヲ論セス數人ニ  
於テ此盜罪ヲ犯シ及ヒ犯サント為タル者ハ  
十五日ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時  
間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六フランクヨリ  
少カラス二百フランクヨリ多カラサル罰金  
ノ言渡ヲ受ク可シ  
此一條ニ記シタル何レノ場合ニ於テモ其犯  
人ハ前文ニ記セシ刑ノ外其刑ヲ受ケシ日ヨ

リシテ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサ  
ル時間第四十條原第四十二條ニ記シタル民權ノ全  
部又ハ一部ヲ行フノ禁ヲ受ケ且裁判所ノ命  
ヲ以テ同上ノ期限間政府ノ監察ヲ受クル附  
加ノ刑ニ處セララル可シ

第二百五十條原第四百九條穀類及ヒ牛馬ニ喂ス可  
キ草類等ノ他人ニ屬スルヲ知リ之ヲ刈伐  
セシ者ハ六日ヨリ少カラス二月ヨリ多カラ  
サル時間禁錮ノ刑ニ處セララル可シ

第二百五十一條原第四百五十條若シ前條ニ記シタル

犯人ニ於テ未熟ノ穀類ヲ刈伐セシ時ハ二十日ヨリ少カラス四月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

此一條及ヒ第百五十七條原第四百條ヨリ第百

六十一條原第四百條迄并ニ第百五十條原第四百

九條原第四百條ニ開載シタル場合ニ於テ官吏ノ行フ所

ノ職務ニツキ其官吏ヲ疾惡シ其罪犯ヲ行フ

タル者ハ其各條ニ記載シタル至重ノ刑ニ處

セラル可シ

縱令ヒ官吏ヲ疾惡スルノ事ナシト雖モ夜間

ニ此罪犯ヲ行フタル者ハ其各條ニ開載セシ至重ノ刑ニ處セラル可シ

第二百五十二條原第三百九條盜罪ヲ犯ス可キ為メ

田間ノ經界ヲナス塀牆ヲ除去シ及ヒ除去セ

ント為タル者ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ

多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六

「フ」ランクヨリ少カラス五百「フ」ランクヨリ多

カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

又其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリシテ五年ヨ

リ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十

條原第四條ニ記シタル民權ヲ行フノ禁ヲ受ケ  
且裁判所ノ命ヲ以テ同上ノ期限間政府ノ監  
察ヲ受ク可シ

親屬相盜

第二百五十三條原第三百八十條夫ノ其婦ノ物ヲ盜ミ  
及ヒ婦ノ其夫ノ物ヲ盜ミ又ハ寡婦及ヒ鰥夫  
ノ中ニ於テ互ニ其死者ノ物ヲ盜ミ又ハ子及  
ヒ卑屬ノ親ノ其父母及ヒ尊屬ノ親ニ屬スル  
物ヲ盜ミ又ハ父母及ヒ尊屬ノ親ノ其子及ヒ  
卑屬ノ親ニ屬スル物ヲ盜ミ又ハ同級ノ親ニ

於テ互ニ相盜ミシ等ノ事ニ於テハ民法ニ循  
ヒ償還ヲ為スノミトス  
其他ノ者ニ於テ其盜ミシ物ノ全部又ハ一部  
ヲ隱藏シ及ヒ己レノ利益ト為タル者ハ盜罪  
アリトシテ罰ヲ受ク可シ

雇人盜家長財物

第二百五十四條原第三百八十六條

第三 奴僕及ヒ其他雇直ヲ與ヘ使役スル  
者等ニ於テ縱令ヒ其主ニ對シ盜罪  
ヲ犯スニ非スト雖モ其主家ニ在ル

者及ヒ其主ニ隨行シテ至リシ家ニ  
 居ル者等ニ對シ盜罪ヲ犯セシ時又  
 ハ主ノ家屋製造所及ヒ倉庫等ニ居  
 住スル工丁及ヒ期限ヲ定メ使役ヲ  
 受ル僮奴等ニ於テ盜罪ヲ犯シ又ハ  
 操作ヲ為ス者ニ於テ平生操作ヲ為  
 ス家屋ニ於テ盜罪ヲ犯セシ時  
 旅舎ノ主人御者舟師及ヒ其代人等  
 ニ於テ其職業ニツキ委託ヲ受ケシ  
 物ノ全部又ハ一部ヲ盜ミシ時

第四

此等ノ場合ニ於テハ其犯人ヲ徒刑場内ニ於  
 テ驅役スル刑ニ處ス可シ

恐喝取財

第二百五十五條原第四條 強逼暴行等ヲ以テ金銀  
 算還ノ契約及ヒ品物ヲ交付ス可キ契約等ノ  
 事ヲ記レタル書類證券等ニ姓名ヲ署セシメ  
 シ者又ハ其証書證券等ヲ交付セシメタル者  
 等ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ  
 文書及ヒ言詞等ヲ以テ人ヲ脅迫シ又ハ人ノ  
 名望ヲ辱ム可キ告發及ヒ罵詈等ヲ為シテ金

額ヲ交付セシメシ者又ハ前文ニ記シタル書類証券等ニ姓名ヲ署セシメ又ハ其書類証券等ヲ交付セシメシ者等ハ一年ヨリ少カラフ五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十フランクヨリ少カラス三千フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

詐欺取財

第二百五十六條 原第四百條 第三項以下 負債ノ為メ自己ニ於テ討還ヲ受ク可キ品物ヲ其管守中ニ亡失シ及ヒ竊取シ又ハ亡失及ヒ竊取セント為シ

タル者ハ第二百五十九條 原第四百六條ニ記スル所ノ刑ニ處セラル可シ

若シ負債抵當トシテ交付ス可キ品物ヲ他人ニ托シタル時其品物ヲ亡失シ及ヒ竊取シ又ハ亡失及ヒ竊取セント為タル者ハ第二百五十七條 原第四百一條ニ記スル所ノ刑ニ處セラル可シ

負債者又ハ他人ノ負債ノ保證ヲ為ス者等ノ其証トシテ附與シタル品物ヲ亡失シ及ヒ竊取シ又ハ亡失及ヒ竊取セント為シタル者ハ

亦第二百五十七條 原第四一 條ニ記スル所ノ刑ニ  
處セラルヘシ

故意ヲ以テ竊取シタル物ヲ隠蔽セシ者或ハ  
負債者又ハ負債ノ保証者等ノ夫又ハ婦及ヒ  
其尊屬ノ親又ハ卑屬ノ親ニ於テ其負債者又  
ハ負債ノ保証者等ノ証トシテ附與シタル品  
物ヲ亡失シ及ヒ竊取シ又ハ亡失及ヒ竊取セ  
ント為タルヲ助ケシ者ハ犯人ト同刑ニ處セ  
ラル可シ

第二百五十七條 原第四一 條前二條 原第四 條ニ記サバ

ル欺罔ヲ以テ行フタル盜罪ヲ犯セシ者及ヒ  
犯サント為タル者等ハ一年ヨリ少カラス五  
年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ  
且十六フランクヨリ少カラス五百フランク  
ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ  
又其犯人ハ其刑ヲ受シ日ヨリシテ五年ヨリ  
少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十條  
原第四 條ニ記シタル民權ヲ行フノ禁ヲ受ヘシ  
且其犯人ハ裁判所ノ命ヲ以テ同上ノ期限間  
政府ノ監察ヲ受クヘシ

第二百五十八條 原第四百五十五條 偽名ヲ用ヒ又ハ偽ノ身位ヲ稱シ又ハ偽リノ起做無實ノ威權及ヒ偽ノ信據等ヲ人ニ證シ示ス可キ為メ詐計ヲ用ヒシ者及ヒ無實ノ成功無底ノ事故等ヲ希望シ又ハ人ヲシテ畏怖ノ念ヲ生セシム可キ為メ偽計ヲ用ヒテ人ノ所有スル金銀財産證券票子契約書算還ノ証書等ヲ己レニ交付セシメ及ヒ交付セシメント為シ且其偽計ヲ以テ人ノ産業ノ全部又ハ一部ヲ竊取シ及ヒ竊取セント為タル者等ハ一年ヨリ少カラス五年

ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十フランクヨリ少カラス三千フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ且其犯人ハ其刑ヲ受シ日ヨリシテ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十條 原第四十二條ニ記シタル民權ヲ行フノ禁ヲ受ク可シ但シ此規則ト其犯人ノ贋造偽造等ノ重罪アル時更ニ重刑ニ處セラル可キ規則ト相抵触スルヲナカル可シ

第二百五十九條 原第四百六十六條 幼者ノ急乏心怯情欲等

ニ乘シ其害トナル可キ方法ヲ用ヒ其幼者ヲ  
シテ其金銀動産及ヒ商業ノ證券又ハ其他ノ  
証券等ヲ貸與フルノ証書算計書等ニ其姓名  
ヲ署セシメシ者ハ其契約ヲ結ヒタル時ノ方  
法及ヒ何如ナル口實アル等ヲ問ハス二月ヨ  
リ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ  
刑ニ處セラレ且其罪犯ノ為メ損害ヲ受タル  
者ニ償還ヲ為ス可キ総額ノ四分一ヨリ多カ  
ラス二十五フランクヨリ少カラサル罰金ノ  
言渡ヲ受ク可シ但シ此犯人ハ其上前條ノ次

項ニ記シタル刑ヲ用フ可シ

第二百六十條 原第四百七條 自己ニ於テ委任ヲ受ケタ  
ル證券ノ其姓名ヲ署シタル餘白ハ偽テ借入  
ノ證又ハ算還ノ証等ヲ記シ及ヒ其他其書ハ  
姓名ヲ署シタル者ノ身體又ハ産業等ハ對シ  
害トナル可キ証ヲ記シタル者ハ第二百五十  
八條 原第四百五條ニ記シタル刑ニ處セラル可シ  
若シ其証券ノ委任ヲ受サル者ノ其罪犯ヲ行  
ヒシ時ハ贋造ノ罪アリト為シテ贋造ノ刑ニ  
處セララル可シ



第二百六十一條 原第三百八十七條 御者舟師及ヒ其代人等ノ搬運ノ任ヲ受ケタル葡萄酒及ヒ其他ノ流動物又ハ商品等ヲ詭換シ及ヒ詭換セント為シ且人害トナル可キ物ヲ混合シ又ハ混合セント為シテ其詭換ヲ行ヒ又ハ行ハント為シタル者ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且二十五フランクヨリ少カラス五百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ又其犯人ハ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カ

ラサル時間第四十條 原第四十二條 ニ記シタル民權ヲ行フノ禁ヲ受ケ且同上ノ期限間裁判所ノ命ヲ以テ政府ノ監察ヲ受ク可シ若シ人害トナル可キ物ヲ混合セサル時ハ一月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六フランクヨリ少カラス百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

誘拐人

第二百六十二條 原第三百五十四條 詐計又ハ暴行等ヲ以

テ年少ノ者ヲ誘拐シ及ヒ誘拐セシメタル者  
又ハ年少ノ者ヲ其指令照管等ヲ為ス者ノ置  
タル場所ヨリ他所へ誘出シ及ヒ他所へ出行  
セシメ又ハ其誘出及ヒ出行等ヲ為サシメタ  
ル者等ハ徒刑場内ニ於テ驅役スル刑ニ處セ  
ラル可シ

第二百六十三條

原第三百五十五條

若シ全周十六歳以下

ノ女ヲ誘拐シ及ヒ誘出セシ時ハ其犯人ニ於

テ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第二百六十四條

原第三百五十六條

十六歳以下ノ女ノ自

カラ誘拐ヲ得キトテ肯シタル時及ヒ自己  
ノ意ヲ以テ誘拐者ニ隨行セシ時等ニ於テ其  
誘拐ヲ為ス者ノ二十一歳以上ナル時ハ有期  
ノ徒刑ニ處セラル可シ

若シ其誘拐ヲ為タル者ノ二十一歳以下ナル  
時ハ二年ヨリ少カラズ五年ヨリ多カラサル  
時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二百六十五條

原第三百五十七條

誘拐者ニ於テ其誘拐

シタル女ヲ妻ト為ス時ハ民法ニ循ヒ其婚姻  
ヲ廢止ス可キノ求メヲ為ス權アル者ヨリ訴

訟ヲ為スノ外其誘拐者ヲ裁判ス可カラズ且其婚姻ヲ廢止セシムルノ言渡ヲ為タル後ニ非サレハ其誘拐者ヲ刑ニ處ス可ラス

兇徒聚衆

第二百六十六條

原第二百六十五條

人ノ身體及ヒ財產等

ヘ對シ兇行ヲ為ス者ノ群衆ヲ為スニ於テハ國ノ安寧ヘ對シ犯シタル重罪ナリトス

第二百六十七條

原第二百六十六條

兇行ヲ為ス者ヲシテ

羣衆セシメ又ハ其群衆セシ者及ヒ其首謀或ハ其指揮者等ノ互ニ交通ヲ為シ又ハ兇行ヲ

以テ得タル利益ヲ算計シ及ヒ分配セント為ス契約ヲ為タル等ノ事アル時ハ其所行ノミ

ヲ以テ國ノ安寧ヲ妨クル重罪ナリト云ヘシ

第二百六十八條

原第二百六十七條

前條ニ記シタル重罪

外ニ於テ他ノ重罪ヲ同時又ハ相繼テ行フ事ナキ時ハ其群衆中ノ首謀指揮者首魁下等指

揮者等ニ於テ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第二百六十九條

原第二百六十八條

此群衆中ニ於テ或ル

職務ヲ行ヒシ者又ハ故ラニ自己ノ意ヲ以テ其群衆ノ徒ヘ兵器彈藥及ヒ重罪ノ犯ヲ行フ

可キ器具及ヒ居所隱匿ノ地集會所等ヲ貸與  
ヘシ者等ハ徒刑場内ニ於テ驅役スル刑ニ處  
セラル可シ

第二百七十條 原第百九條 噪聚暴行脅迫等ヲ為シ一  
人又ハ數人ノ民權ヲ行フヲ妨ケタル時ハ其  
犯者ノ各人ニ於テ六月ヨリ少カラス二年ヨ  
リ多カラサル時間禁錮ノ刑ヲ受ケ且五年ヨ  
リ少カラス十年ヨリ多カラサル時間議員ヲ  
撰舉シ及ヒ議員ニ撰舉ヲ得ルノ權ヲ行フノ  
禁ヲ受ク可シ

第二百七十一條 原第百十條 若シ此重罪ノ犯ヲ全國  
中又ハ一州數州又ハ一郡數郡等ニ於テ行ハ  
ント協議シタル計謀ヲ以テ為タル時ハ追放  
ノ刑ニ處ス可シ

第二百七十二條 原第四百四條 群衆ヲ為シ且暴威ヲ  
以テ品物及ヒ商品又ハ金銀ノ證票及ヒ其他  
動産ノ類等ヲ毀損セシ者ハ有期ノ徒刑ニ處  
セラル可シ且其各犯人ハ二百フランクヨリ  
少カラス五千フランクヨリ多カラサル罰金  
ノ言渡ヲ受ク可シ

第二百七十三條 原第四百一十一條 人ノ挑唆ヲ受ケ又ハ

懇諭ニ因テ前條ニ記セシ所ノ暴行ニ交加シ

タル証アル者ハ徒刑場内ニ於テ驅役スル刑

ノミニ處セララル可シ

第二百七十四條 原第四百一十二條 此暴行ニ因テ穀物及

ヒ不良ノ穀物又ハ穀粉及ヒ諸般ノ粉ト為ス

可キ品物又ハ麵包葡萄酒及ヒ其他ノ飲料等

ヲ損敗セシ時ハ其暴行ノ首謀及ヒ唆挑シタ

ル者等ニ於テ有期ノ至重ノ徒刑ニ處セラレ

且第二百七十二條 原第四百一十條 ニ記シタル至重

ノ罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

發塚

第二百七十五條 原第三百六十條 墳墓ハ暴行ヲ加ヘシ

者ハ三月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル

時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フラン」ヨ

リ少カラス二百「フラン」ヨリ多カラサル罰

金ノ言渡ヲ受ク可シ但シ此規則ト其犯人ノ

此暴行ニ附加シテ犯シタル輕重罪ニツキ受

ク可キ所ノ刑ト相抵觸スル「ナ」ナル可シ

偽為家資分散

第二百七十六條 原第四條 商法ニ記載スル場合ニ於テ家資分散ヲ為スノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ刑ニ處セラル可シ

故ラニ他人ノ金銀ヲ竊取セント欲スルノ意ヲ以テ偽テ家資分散ヲ為タル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

故ラニ他人ノ金銀ヲ竊取セント欲スルノ意ナク過咎ニ因テ家資分散ヲ為タル者ハ一月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二百七十七條 原第三條 商法ニ記載スル時ニ循ヒ故ラニ他人ノ金銀ヲ竊取セント為スノ意ヲ以テ偽テ家資分散ヲ為タル者ノ附從ハ其首謀ト同刑ニ處セラル可シ

第二百七十八條 原第四條 人ノ為メ貿易ノ牙保ヲ為ス者ノ家資分散ヲ為タル時ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ若シ其牙保ヲ為ス者ニ於テ故ラニ他人ノ金ヲ竊取セント為スノ意ヲ以テ偽テ家資分散ヲ為タルノ證アル時ハ無期ノ徒刑ニ處セラル可シ

盜私文書

第二百七十九條 原第百九條 裁判所ニ於テ互ニ訴訟ヲ為シ證書及ヒ記單等ノ類ヲ造リシ後ニ何レノ方法ヲ論セス其証書及ヒ記單等ヲ竊取セシ者ハ二十五フランクヨリ少カラス三百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

但シ其刑ハ訴訟ヲ為タル裁判所ヨリシテ言渡ス可シ

類聚佛國刑法卷二終

